

第1回高精度測位技術を活用した公共交通システムの高度化に関する技術開発研究会

1. 日時

平成27年8月5日（水） 10:00～12:00

2. 場所

中央合同庁舎2号館16階 国際会議室

3. 出席者（順不同、敬称略）

石田座長、寺田委員、坂下委員、眞子委員、梶山委員、小里委員、須藤委員、その他国土交通省等関係者

4. 議事

- (1) 本研究会について
- (2) 運行情報の提供等の事業者の取組について
- (3) 高精度測位技術を活用した公共交通システムの高度化に関する技術開発の概要について
- (4) 平成27年度の事業実施内容について
- (5) その他

5. 議事要旨

○事務局から、議事（1）について説明。（特段の意見なし。）

○東急バス殿及び東京都交通局殿から、議事（2）について説明後、質疑応答及び自由討議が行われた。

- ・各社で個別最適してきたシステムについて、全体最適が必要。そのためにデータの共同利用はやらなければいけないと思う。車線ごとの地図データがないということも課題。
- ・バスロケの開発はこれまで供給側の視点が強かったと感じる。
- ・共通化というときに一番大事なのは、プラットフォームの基本設計だと思う。どういうシステムに対しても、親和性の高いプラットフォームの基本コンセプトをどう作り込んでいくかというのが、大事なポイントと思う。特に都心のターミナルは、乗客の動線というのは建物の中のことが多いので、建物の中の測位も含めて、全体の精度で性能が決まるので、それもあわせて議論が必要。
- ・今までは、各バス事業者が、1つの個別のサービスとして、バスロケーションを提供してきたが、今後は、2020年のオリンピック・パラリンピックも見据えて、各鉄道、バスを含めて交通情報をどのようにご案内するか、何かできるものがないかも、あわせて今後考えていく必要があると思っている。
- ・2020年の東京五輪のときに、他社のバスと一緒にシャトルバスの運行をやった

り、他の輸送モードともやったりしていくときに、共通のプラットフォームみたいなものがあれば、便利と考える。ただ、システムを統合しようとする、データの整合性が合わないということもある。

○事務局から、議事（3）について説明後、質疑応答及び自由討議が行われた。

- ・ぜひ、進めてもらいたい。今はデータフォーマットの検討をするときに、技術的な検討と合わせて、ハッカソンみたいな手法もある。海外のインバウンドの外国人の方々に、インタビューすると、バス停は聞く人がいないのでバスなどは使わないとの回答が多かった。例えばバス自身にビーコンなどをつけて、自分が乗らなければいけないバスが近づいてきたら、スマートフォンのアプリが立ち上がって、乗るべきバスを教えるというようなものも考えていくといいのではないか。
- ・「表示のユニバーサルデザイン」もやってほしい。
- ・プラットフォームということに関しては、サード・パーティーの積極的な活用というのもあると思う。
- ・地下空間の位置情報について社会実験をしているが、維持費などの課題がある。鉄道からバスへの案内などは、情報、データの見せ方も大事。

○研究実施者から、議事（4）について説明後、質疑応答及び自由討議が行われた。

- ・もう少し一般的な知見を得る方向の方が好ましいような感じがする。
- ・「どういうところで迷っているのか」という情報も大事。そういうプロセスとか、経路についてのデータがあると良い。
- ・プラットフォームをつくっていったら、準天頂衛星で精度はよくなるが、高精度地図も考える必要がある。屋内のシームレス性も考えないと、サービスまでは昇華しない。
- ・事業者の方にも、大きなメリットが必要。
- ・地方・地域での活用の仕方も考えるべき。
- ・ダイヤ情報は、経営情報の部分もあるので、どこまでオープンにするのか、あるいはプラットフォームに乗るのかという議論がある。バス停の位置の管理がどこまでできているかというところもある。
- ・現在、共同運行の場合、他社さんの動きを把握できないが、「この後に他社さんのバスが来ますよ」という案内ができるようになれば、ユーザーから見ると便利。地方については、バスという形だけではなくて、他の輸送モードをミックスした形で検討が必要。

○事務局から、議事（5）について説明。（特段の意見なし）

○次回の研究会は、平成27年度末の開催を予定。